

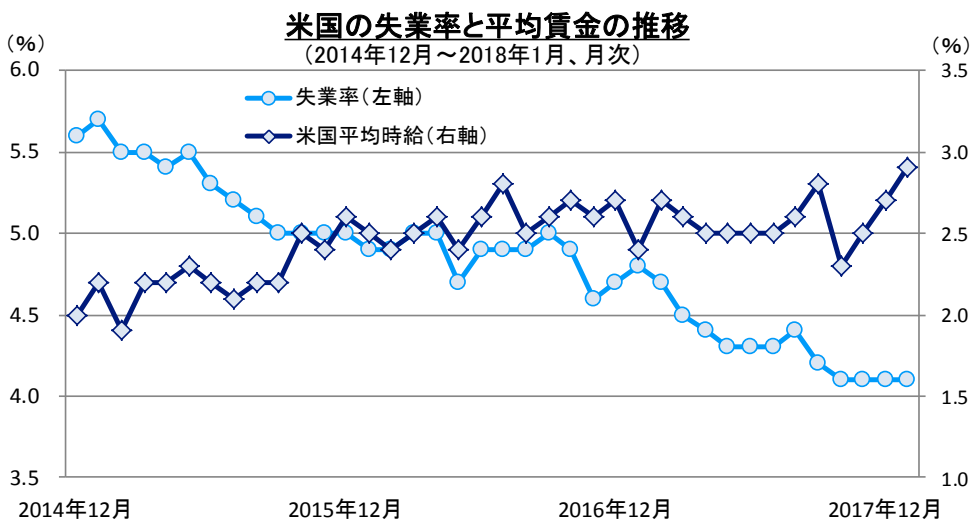


足元の世界株式市場について

要約

- 米国の雇用統計が市場予想を上回る内容だったことから、米国のインフレや金利上昇懸念などを受けた米国株式市場に、調整が起きました。
- 世界経済全体が安定した物価動向や、緩やかな成長が確認されるに従って、良好なファンダメンタルズに回帰し、株式市場は再び上昇基調に転じると期待されます。

2月に入ってから世界の株式市場は、値動きが大きくなっています。2月2日に発表された米国の雇用統計が事前の市場予想を上回る強い数字となったことを背景に、米国の長期金利が上昇したことから、株式市場が下落し、その後も乱高下が続いています。



今月2日に発表された米国の雇用統計の内容は、失業率は4.1%と前月比で横ばいと、事前の市場予想と一致するものとなったものの、時間当たり平均賃金が前年同期比で2.9%の上昇と、前月および事前の市場予想を上回る伸びとなり、インフレ懸念、景気過熱が意識されました。この統計を受けて、FRB(米連邦準備制度理事会)による金融引き締めが加速するとの思惑が高まりました。

※上記は過去のデータであり、将来の運用成果などをお約束するものではありません。

【当資料のお取り扱いにおけるご注意】本書は、情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。また、信頼できる情報に基づいて作成されたものですが、その情報の確実性あるいは完結性を表明するものではありません。本書に記載されたデータや記述等は過去の事実や実績を示したものであり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。本書で詳述した分析は、一定の仮定に基づくものであり、その結果の確実性を表明するものではありません。分析の際の仮定は変更されることもあり、それに伴い当初の分析の結果と重要な差異が生じる可能性があります。市場の見通しに関するコメントは、本書作成時における外国株式運用部の見方を反映したものであり、将来の時点において予告なく変更される可能性があります。本書について事前の許可なく複製、引用、転載、転送を行うことを禁じます。

インベスコ・アセット・マネジメント

商号等：インベスコ・アセット・マネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第306号
 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

ファンドの照会先：お問い合わせダイヤル 03-6447-3100
 受付：営業日の午前9時から午後5時まで
 ホームページ <http://www.invesco.co.jp/>

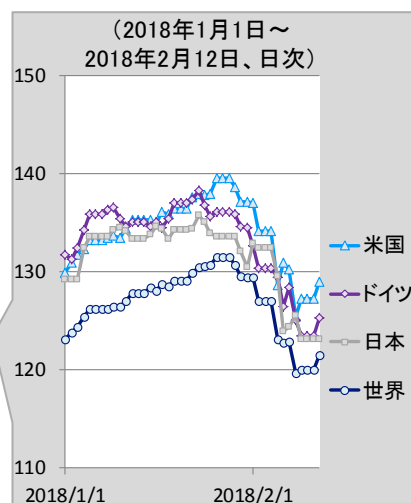
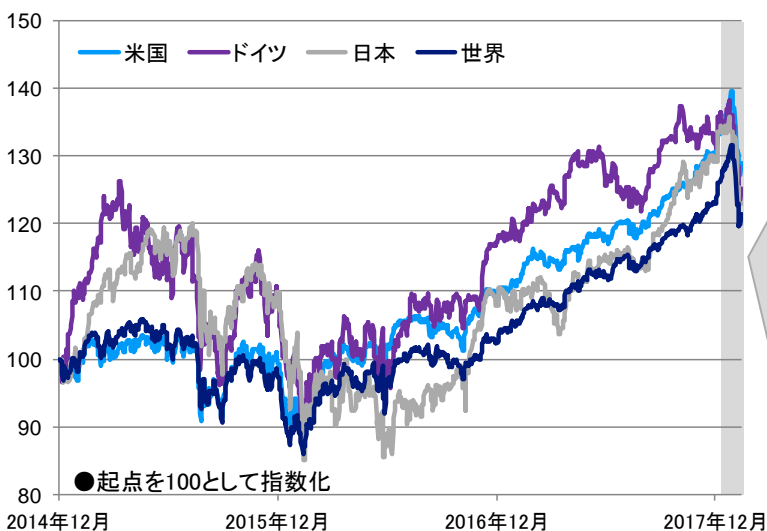


米国10年債利回りが2018年1月下旬に昨年2017年の3月に記録した直近の高値(2.6%)を超えてきていたところに、前述の雇用統計を受けたインフレ懸念の台頭から、次のターゲット水準である3.0%が意識されたことで、米国の長期金利は雇用統計の発表当日以降、上昇しています。FRBの金融引き締めとともに、長期金利が更に上昇するのではないかの懸念から株式市場は下落しました。

米国経済は、2017年10-12月期のGDP成長率が、前期比年率2.6%(速報値、実質ベース、季節調整済)と15四半期連続のプラス成長を記録するなど、景気の拡大が続いています。景況感の改善も続いています。消費物価指数等のインフレ指標は安定しており景気に過熱感はありません。FRBの金融政策は、2018年も経済動向を注視しつつ、2015年12月に開始した利上げをゆっくりとしたペースで段階的に行っていくというもので、これまでのスタンスに変化はなく、緩やかな金融引き締めは、景気の過熱を抑制する効果が期待されます。

主な株式市場の推移

(2014年12月31日～2018年2月12日、日次)



出所:ブルームバーグ。

米国:S&P500指数、ドイツ:ドイツDAX指数、日本:TOPIX、世界:MSCIワールド指数

一方、米国企業の業績は、景気の拡大を背景に総じて増益傾向にあり、トランプ政権における経済政策によって更なる業績拡大が見込まれます。こうした環境下、米国では安定した物価と緩やかな景気拡大を両立しつつ、企業業績が拡大することで、株式市場も落ち着きを取り戻し、上昇すると見込まれます。

米国以外の地域でも、特に欧州では景気回復が鮮明になりつつあり、株式市場の上昇が期待されます。ユーロ圏の2017年10-12月期のGDP成長率は前期比年率0.6%(速報値、実質ベース、季節調整済)となり、緩やかな成長が続いています。また、ユーロ圏主要国のドイツでは、IFO経済研究所業況指数が世界金融危機以前の水準を超えるなど、景況感の改善も進んでいます。

世界の市場は、足元で不安定な状況が続いていますが、12日の米国10年債利回りは、2.86%と国債市場は落ち着きを取り戻しています。また、12日の株式市場は、ダウ工業株30種平均が前日比410ドル(前日比1.7%)と上昇しています。世界経済全体が安定した物価動向や緩やかな成長が確認されるに従って、市場参加者の注目点が良好なファンダメンタルズに回帰し、株式市場は落ち着きを取り戻し、再び上昇基調に転じると期待されます。

※上記は過去のデータであり、将来の運用成果などをお約束するものではありません。